



AMERICAN VIDEO ART

を介して非常な正確さで相呼応しているのである。見る人は、このタイミングは偶然のものであるように思うかもしれないが、実はきわめて直感的、芸術的なもので、メレディスとビン相互の驚くべき感覚の鋭さが効を奏しているのである。メレディスとビンは長年一緒に仕事をしてきたが、共に構成し、共に演じたのはこの作品が最初である。

われわれは技術的実験の一つとして、多様なカメラ・ポジションを試み(3400型ポーターバック・カメラの機動性を利用)、多種類のレンズを用いてみた。ある時は、直接性、親近感を出すためにカメラは手持ちで扱われ、時にはしっかりと安定した本式な場面を撮るため三脚を用いた。ロケーション撮影も、3400型ポーターバックのおかげで最も簡単な道具立てで行うことができた。 ■

WOODY AND STEINA VASULKA

スタイナ・バスルカ ウーディ・バスルカ

スタイナ・バスルカはアイスランド生まれで、アイスランドのレイキャヴィックにある音楽学校とブラハの音楽学校でバイオリンを学んだ。そしてアイスランド交響楽団のメンバーとなり、その後ニューヨークでフリーの演奏家となった。

ウーディ・バスルカは、チェコスロバキア生まれで、技術工学を修めた後ブラハのフィルム・アカデミーに学んだ。アルジェリア、アイスランド、チェコスロバキアでドキュメンタリー・フィルムのシリーズを作り、その後ニューヨークで長年にわたりマルチ・スクリーン方式の映画の研究にたずさわった。

ウーディとスタイナ・バスルカの夫妻は主として $\frac{1}{2}$ インチのテープを使ってビデオの創作を行っている。夫妻は、ニューヨークにある各種の媒体を使った創作芸術発表のための劇場である「ザ・キッチン」の創設者でもあり、ニューヨーク州芸術協議会から助成金を受けている。1972年夏、夫妻は全米芸術基金からの助成金により、サンフランシスコのKQED局にある全米テレビ実験センターに客員作家として在籍した。現在はニューヨークWNET局の実験工房で、知覚についての研究を進めている。バスルカ夫妻は1965年にアメリカに渡ってきた。

DISTANT ACTIVITIES

かなたの動き

スタイナ・バスルカ ウーディ・バスルカ

1972年5月制作。この作品は、ビデオ画面の同時フィードバック効果をねらったもので、ビデオキーヤーにより処理し、コントロールされている。サウンドは、音声合成装置(パトニー社製)で作られた音と接続されたビデオ・シグナルから発生される。この作品ははじめ半インチのビデオテープにより白黒で制作されたものを、二重採色装置によってカラー化してある。 ■

STEPHEN BECK

スティーブン・ベック

1950年シカゴ生まれ。1958年以来エレクトロニクスを創作活動の媒体として使用。イリノイ大学電気工学部在学中音楽科付属の電子音楽スタジオで技術面を担当。1970年、全米芸術基金から全米テレビ実験センターに助成金が支給されたさい同センターのスタッフとなる。以来、視覚的表現のための器材としてベック・ダイレクト・シンセサイザーを設計、製作し、使用している。

SHIVA

シバ

スティーブン・ベック

この作品は、ベック自身が設計、製作したダイレクト・ビデオ・シンセサイザーによって制作された。この装置は、カメラその他の光学装置を使わずにビデオ画像を生み出すことができる。音楽はバクラのエレクトロニック・サウンド・シンセサイザーによって作曲されている。